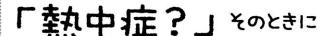
日に日に日差しが強くなり、夏も本番になりました。明るい笑顔の子どもたちは元気そうにみえても体 は意外に疲れています。まだまだ続く長~い夏!暑さに負けない体づくりのためにも食事・睡眠・休息を 上手にとってこの夏を乗り切りましょう。



子どもたちが大好きな夏ですが、熱中症には注意を。子どもに 異変があったら、すぐに手当てをして重症化を防ぎましょう。



涼しい場所に移動する

風通しのよい日陰や涼しい室内に運んで 寝かせ、服のボタンやベルトを外す。

□ 冷やしたタオル □ タオルに包んだ 保冷剤 □ 冷之た缶ジュース

などを挟んで冷やすと

効果的



体を冷やす

ぬらしたタオルで体をふき、うちわや扇風 機の風を当てて体にこもった熱を逃がす。



水分を少しずつ与える

麦茶や子ども用のイオン飲料などをひ と口ずつ与える。一度に飲ませず、様 子を見ながら。



わきの下



39℃以上の発熱があり、 ぐったりして意識がない ときは救急車を呼びます

~ RS ウイルス感染症~

園では未満児を中心に夏かぜで高熱が出てお休みする 子どもさんが増えました。全国的には RS ウイルス感染 症の流行が心配されています。RS ウイルスによる呼吸器 感染症です。はじめは、鼻水や咳などの風邪の様な症状 で始まりますが、ひどくなると高熱が出たり、喘息(ゼ ーゼー、ヒューヒュー)が出現します。1 才未満の子ど もさんは肺炎や気管支炎を起こし、重症化することもあ りますので注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症

福岡県でもまた徐々に新型コロナ感 染症が増えています。夏休みに入り、人 の往来が活発になる時期でもあります ので、感染対策の徹底をお願いします。 登園の際は必ず検温をしていただき、発 熱や風邪症状がある場合は、自宅で安静 に過ごしましょう。

て♪の±増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ころに多 くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症するこ とが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかな か傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。 やがてかゆみの強い水ほうができます。これをかきこわし た手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



主な症状

- 皮膚に小指のつめくらいの水 ほうができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅ くした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガー ゼで覆う。皮膚科で処方さ れた薬があれば塗ってから、 ガーゼで覆う
- おふろでは湯船につからず、 シャワーで洗い流して清潔を
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、う つる心配はありません。 じゅくじゅくしていたら、